

市川シビックロータリークラブ会報



世界に希望を生み出そう

2023-2024 年度

会 長：井上喜久男

会長エレクト：長谷川泰士

副 会 長：大塚 恵二

幹 事：宇田川純一



都古流一孝会 内田一孝作

◆出席委員会

大塚委員

■会員総数：27名

出席計算に用いた会員数
26名

■出席会員数：20名

■出席率：76.9%

■前々回補正出席率：一

■メイクアップ：一

●ゲスト

市川市 市長
田中 甲様

●ビジター

なし

■本日のプログラム

第1334回 2024.5.13

諸祝

会員卓話

(青少年奉仕委員会)

■次回のプログラム

第1335回 2024.5.20

ゲスト卓話

第1333回 2024.4.22 例会報告

会長挨拶

井上 喜久男 会長

皆さん今晚は。

先週第一グループの第6回会長幹事会が開催されました。当クラブが今回、会場担当でしたので、市川駅南口よし園で開催いたしました。

議事の中で能登半島地震支援金のお礼がありました。

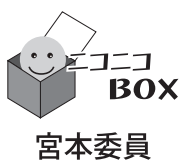
そして、この度発生した台湾東部沖地震支援金のお願いがありました。締め切りが5月10日で、休みが続きますのでラインにより臨時理事役員会を開催し、支援金3万円を決定し送金することに了承いただきました。

本日は当クラブの名誉会員であります、市川市長の田中甲様の卓話です。今年90周年を迎えます市川市の多様なお話楽しみです。

幹事報告

宇田川 純一 幹事

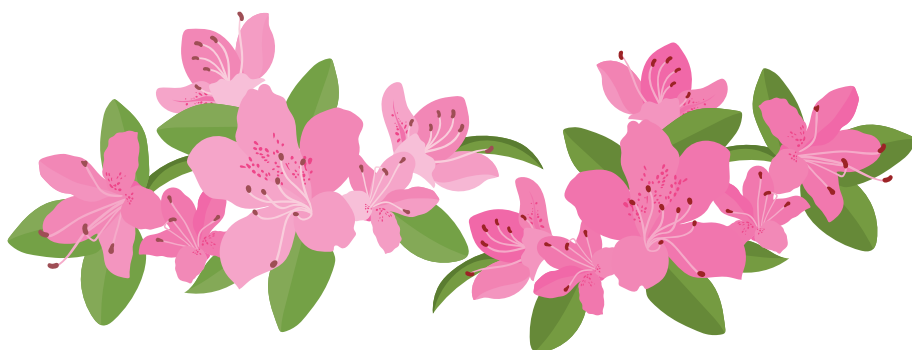
次週は休会となります。よろしくお願いいたします。



●田中市長、本日はありがとうございます。卓話、よろしく願いいたします。

井上会長／宇田川幹事

内田／上條／越永／塚本／佐々木／田中／竹内／中村(源)／山崎／古山／大塚／長谷川／佐藤／宮本／渡邊／片野／板橋／中村(裕) 各会員





卓 話

市川市 市長
田中 甲 様

皆様こんばんは。市川市の田中です。

今日4月22日は、2年前私が初登場した日になります。丸2年が経ちました。

そんなタイミングですので、今回は市長就任してからの2年間を振り返りたいと思います。

この2年間は、私の人生の中において最も忙しく、最も充実した2年でありました。

国会に10年間籍を置いておりましたが、10年間の国会活動と比べましても、市長職というのは、その3倍忙しく感じています。

市長の仕事は1つ1つの問題を、中には瞬時に結論を出さなければならないことが多いです。毎日毎日、秘書課がよくもここまでスケジュールを入れるもんだと…

毎日面会があり、午後の時間帯だけで5組の面会があるときもあり、次から次へと皆様方にお会いしていくと、それまでの執務していた内容が吹っ飛んでしまうくらい忙しい日もあります。

◆この2年間念頭に置いていること

1つは「信頼される市川市政を作りたい、作らなければならない」ということです。

市川市政は、いろいろマイナスのイメージが膨らんでしまった時期があったので、少し落ち着いて信頼される市川市政、市民からそのように思っただける市川市を作りたいということで努力してきました。特に会合には積極的に顔を出すようにしております。今年の新年会は87カ所ご案内いただき、63カ所出席させていただきました。ありがたいことに1年中いろんな方面会しながら仕事をさせていただいております。

2つ目は「県・国、そして近隣の市町村のリーダー・組長さんと連携を図るよう

な市川市政」にしていかなければならないことです。

県と市川市との関係を円滑に進められること、これは間違いないと思っております。ですので、知事が出席される会合にはなるべく出席するよう心がけております。また、千葉県は県政150周年の節目を迎えておりますので、これからも熊谷知事との信頼関係を築いていければと思います。

また、何かあった時に助け合えるように、近隣の市長さんたちと協力し合う、そういうところを大事にしていかなければならないと考えております。

この2年の間に大反省したことがありまして、クリーンセンターの機能がストップしてしまい、本当に真っ青になりました。住民のごみはどうするのかと。山積みになった映像はニュースでも随分流れておりました。その時いち早く助けてくれたのが、船橋と浦安の市長さんでした。その後、習志野の市長さんにも助けていただき、市川市民のゴミ処理焼却に協力していただきました。そういうこともありましたので、県との関係を大切にしていかなければならないし、国の力というものをうまく活用していかなければならない、近隣同士が仲良くしていくことは非常に大切だと思いました。

今年、市川市は90周年を迎え、本当に誇らしいことです。ですが来年、日本は昭和100年の節目を迎え、昭和から新しい国がスタートしたというような捉え方をするのならば、市川市全体も新しい時代に入って、様々な面で次の時代を担っていく面々に受け継いでいくということを考えなければならぬとそんな風に思っております。

◆この2年間の市川市の問題点

市川市内の格差、所得格差・教育格差・南北の格差、南北に長い市川市ですから、北の要望と南の要望の内容が違って当然なんですけども、地域や人の空気感や意識の違いを感じます。

地域のこれからとしては、“行徳”は水閘門の工事が始まり、道路環境、交通がスムーズになってくると、ある程度評価される町になっていくかと思います。そして海沿いの“塩浜”は、海がある町ということで十分な価値を見出している現状なのかをしっかりと確認していきたいという風に思いました。また、調整区域の問題については、令和7年度に市川マスタープラン、市川市のマスタープランを作って県に提出します。今その計画を立てているところでもあります。大きな開発スポットとしては、“八幡”の北口の再開発をしているという現状です。

また、市川の人口は現在、49万4000人を超えました。松戸に追いつくなと思ったのですが、今松戸は、49万9000人。相変わらず5000人の差が未だにあります。

◆やってよかったこと

14地区のタウンミーティングを行いまして、要望を聞き約1年半経ちますが、いただいた要望をだいたい処理することができました。

【子育てしやすい市】

給食費の無償化、学校医療費の助成、18歳までの医療費や第2子以降の保育料の無償化、第1子の年齢制限なく所得制限もなくやっており、ある程度評価され県の中でも子育てしやすいランキングの上位に入るようになりました。また、新たに子育て世代がありがたいと思ってもらえる政策を協議しております。

【様々な企業との締結】

日本郵政、地元の警察、市川市が三すくみになって安全に関する覚書の締結を行いました。

その他、日清製粉や京葉ガス、パナソニックとも締結しました。

パナソニックにいたしましては、EV車

やEV車の充電器に力を入れていることもあり、全国の中で市川市を最初に選んでくださいました。

【デジタル通貨】

市川市内で使えるデジタル地域通貨「ICHICO(イチコ)」を使えるお店を増やしていて、商店の数は200から360店舗までに増えました。

今朝もネットで市民の声を確認したのですが、「原木中山や北部の北国分で、使えるような店はない。これはお金を投入する割には市民にとってバランスが取れていないのではないかと批判の声もありました。まさにその通りで、これからエリアをどんどん広げていかななくてはなりません。

デジタル地域通貨の面白みは、何%も安く買えるという話だけではありません。市民の方が行政に積極的に参加してくれたり、協力してくれたりすると行政ポイントというものが付与されるというところが、実はデジタル地域通貨の最大の面白みであります。

例えば、ボランティアで環境活動してくれた人にはポイントが付与される。免許を返納したらポイントがもらえるなどといったことです。

つまり、健康を増進するため、歩いたことに対して、健康管理のために努力したということで行政ポイントが付与され、そのポイントが日用品を買うお金になるという仕組みです。

もう少し市民の皆様と良く話をし、理解し合う中で進めて行きたいと思っております。

【ゴールドシニア】

75歳以上、医療制度的には後期高齢者と呼ばれる皆様を“ゴールドシニア”と呼びまして、ゴールドシニアの皆様には、「チケット75」を配布しております。

「チケット75」というのは、バスまたはタクシーを選んで申請していただき、枚数に制限がありますが、バスはどこまで行っても100円、タクシーはワンメーター無料というものです。

また、デジタル通貨を使ってお得になっ

てもらいたいということで、15カ所の公民館で無料のスマホ教室も開催いたします。さらにスマホを使い始める方、購入される方に上限2万5000円まで負担をいたします。

ゴールドシニアの皆様に学んで使ってもらって得をするという仕組みを今作ってるところです。

【子ども食堂・いちカレ】

子どもたちの給食無償化にプラスして、子ども食堂、フードリボン活動をしています。

また、一般の方で食べ物に困っている方には「いちカレ」といって、和洋女子大学がレシピ協力してくださったカレーを週3回、開催場所はその都度変わりますが、無料で食べることができるという活動もしています。

◆反省すべきこと

私自身体調を崩してしまったこと。ちょうど昨年の今ごろは退院して間もないという時期でした。今のところ転移はなく順調に公務を果たせておりほっとしております。

また、先ほどお話ししたクリーンセンターの事故の件。近隣の市長さんに助けをいただき、助け合いの大切さを感じました。

◆90周年事業に関して

11月3日を中心に90周年事業を行います。

さだまさしさんが、市川市の親善大使になってくれるのを快諾してくださいました。

JRの発車ベルや市役所の12時のチャイムもさださんの心温まるメロディーで知らせることができたらなど、さださんの曲を市民の皆様にも少しでも多く耳にってもらって、自分たちの町の親善大使なんだなと感じてもらいたいです。

また、さださんにも、青春時代20年間過ごしたこの市川の素晴らしさを市川市外、国外、もしかすると海外でも発信していただければ、大変光栄だなという風に思っているところです。

2年間、市長職を務めてまいりました。私の市長の期間というのもあと2年残っているわけではありますが、市民の皆様方と協力し合いながら、安定した市川市の姿をこれからも作り続けてまいりたいと思います。

ぜひ皆様のご指導いただきますよう心からお願い申し上げまして、卓話を終了させていただきます。ありがとうございました。

